

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
07

2009
霜月・師走

達磨祭

「行」としての
少林寺拳法



「行」としての少林寺拳法

10月4日、金剛禅総本山少林寺において達磨祭^{だるま}が開催された。本堂では、多度津町長や教育関係者ら1200人の来賓を迎えて、達磨祭法要が厳粛に執り行われ、法要後は演武会が開催された。また、境内・館内には、各地の道院・支部から参加した地方物産店やゲームコーナーなど各種催し物があり、抜けるような青空の下、本山は1600人の来山者で賑わった。



9時半、本堂に太鼓の音が響き渡った。自然と背筋が伸びる、厳かな空気の中、達磨祭法要が始まった。

今年特筆すべきは、開式の辞の後に、鎮魂行が行われたことである。「行」としての少林寺拳法を、参列された来賓の方々にも理解を深めていただくため、川島一浩宗務部部长が主座を務め、瞑目の時間も十分に取られていた。パンフレットにも教典の内容が大きく掲載されており、来賓の方々はパンフレットを見ながら、鎮魂行の雰囲気を感じ取られていたようだった。

奉納演武、祭詞奉読と続き、導師挨拶では浦田武尚金剛禅総本山少林寺代表が、「達磨の像は、私たちが見習うべき姿としてあります。七転八起、不撓不屈の精神を誓い、実行していきます」と述べた。その後、宮地峰樹日進南道院道院長による拳士表白、そして、宗由貴師家をはじめ役員・道院長の献香と、粛々と進行していった。なお、法要の中で、継続して達磨祭に出店・協力いただいている岡山市

担当／山下真由美



写真／文

SHORINJI KEMPO UNITY

顧問 鈴木義孝



開祖の時代、本山の達磨祭は午後7時からの夜間行事で、本部道院をはじめ近隣の道院・支部の拳士による、厳肅な中にも楽しく充実した集いでした。法要では、開祖の達磨に因^{ちな}だご法話が圧巻でしたし、演武会では直接技の注意をされたり賞状を渡されながら一人ひとりに声をかけられていたのです。

達磨祭が今のようにならなく地域に開かれるようになったのは、宗由貴師家の代になってからです。もともとは達磨大師のご命日ですから「達磨忌」というのが一般的なのですが、何度転んでもまた立ち上がる達磨さんにはむしろ明るく賑やかなイメージの「達磨祭」がふさわしいとされた開祖のご意志を更に大きく発展させるためでした。



多度津フェスティバル：達磨祭と並行して、少林寺拳法グループと多度津町の有志が実行委員会を結成し運営・実行している多度津フェスティバルが開催された。3日は、多度津駅前の通りで各種イベントが、4日は本山の大駐車場でフリーマーケットが開かれた。写真は3日夜に行われた第3回全国だるまさんがころんだ選手権の様子。鬼さんは宗由貴少林寺拳法グループ総裁。

少林寺拳法連盟、境港道院に感謝状が授与された。

法要後、引き続き演武会が開催された。本堂の空気は静から動に一転し、来賓・保護者の見守る中、拳士は日ごろの修練の成果を遺憾なく発揮していた。最後に、田村明宗務局長による法話で締めくくられた。

境内や大食堂では、道院・支部による地方物産店が催されていた。北海道など遠方からの出店もあり、おでん、みたらし団子、サザエ壺焼きなどバラエティに富んだ内容で、21店舗が並んだ。講堂には恒例の「こどもだるま絵」のほか、「少林寺拳法Q&A」など展示物が充実していた。禅林祭も同時開催されており、1年に1度の本山一般開放日であるこの日は、地元の方も訪れ、共に祭りを楽しんでいた。

なお、達磨祭による収益金の一部は、社会福祉法人多度津町社会福祉協議会に寄付された。

福島県教区達磨祭

金剛禅運動の更なる
展開へ向けて

9月5日、本山から浦田武尚代表のご臨席をいただき、福島市内のホテルにおいて、2009年福島県教区達磨祭が開催されました。

県教区主催による達磨祭は、今回初の試みで、県内の道院長および道院役員33人が一堂に会し、式典が挙行されました。

道院長は法衣に輪袈裟・念珠といった正装で臨み、式典は達磨祭の諸作法に則り、厳粛に挙行されました。また、白河東道院の山田道院長と鈴木副道院長による迫真の演武が奉納され、式典を一層引き立てました。

続いて浦田代表から法話を頂



戴し、「道院長は伝道者であり、釈尊（達磨）開祖と続く教えを後世に伝えていくことの重要性」を熱く説いていただきました。

式典終了後は懇親会が設けられ、参加者は浦田代表と近しくお話をする機会を得るとともに、参加者同士大いに親睦を深め、県教区における金剛禅運動の実践について意識を共有することができました。（菊池重吉）

西三河第四小教区

技術研修会で交流を
深め、結束を図る

8月23日、愛知幸田道院にて中学生、初段以上の拳士を対象に、西三河第四小教区技術研修会が開催されました。

小教区の7道院より53人の拳士が集まり、鎮魂行、基本、実技の順で進め、日ごろ顔を合わせることの少ない他の道院の拳士とお互い汗を流しながら修練することができました。

また、技術研修のみならず、各道院における指導方法のポイント披露など、3時間という限られた時間ではありましたが、有意義な交流を図ることができ、教区の結束もより強いものになったと思います。最後に参加拳士より継続的にこのような



イベントを計画してくださいとの声も多数寄せられ、研修会を終了することができました。（渡辺郁男）

名古屋笠寺道院

設立35周年記念祝賀会

9月6日、老舗・生簀料亭にて、名古屋笠寺道院の設立35周年記念の祝賀会が行われた。当日は、料亭全館が貸し切りとなり、参加者は「有段者限定」とし、現役拳士とOB会が参集して盛大に開催された。入門以来35年にわたり鈴木道院長とのつきあいのあるOB会の諸先輩や、今は母親業で忙しい有段者ママ拳士も多数お祝いに駆けつけた。20歳過ぎから70歳代までの有段者拳士の70数名が、鈴木

道院長を囲み名古屋笠寺道院の歴史を語り合い祝杯を交わした。まさに、世の中は政権交代や大不況という時代の嵐の中で、別世界の充実した楽しい時間を過ごすことができ、改めて自分の理想とする意志を貫いた鈴木道院長に感謝するとともに、門下生一同も金剛禅思想の確かさを実感した。鈴木道院長も還暦を過ぎ、「自分たちが情熱を燃やした時代も移り変わる。少林拳法もこの先何年できるかわからないが、皆が来る間は続けたいな」の言葉を聞き、混沌の時代を私たちの陣頭に立ち、生き抜いた先達の知恵を感じる思いがする。名古屋笠寺道院の35年の歳月の流れの中で、鈴木道院長と門下生の人生が談笑の中で解け合っています。人の価値と幸福は、その晩年にあり。（木村敏雄）

三重白山道院

盆踊り大会に演武出演

8月22日、津市白山町上ノ村地区の盆踊り大会に演武出演をしました。この盆踊りは上ノ村地区が、地元で有名な成願寺で、昔本来の盆供養と地元の方々が集うことに意味を見いだし5年前から行われています。



西山眞昭上人の読経の後、上ノ村地区を先祖供養で「エイサーはくさん倭人」が道ジュネイ&盆踊り演舞を行う珍しい盆踊りです。地区を練り歩いた「エイサーはくさん倭人」は威勢よく山門より入場し演舞を披露されました。その後、私たちの出番です。まず、全員での基本演練、その後少年部の複数の組演武を同時に行い、真剣にまた楽しげに白衣殿壁画のようでした。続いて一般拳士の組演武、防具着用用の運用法、最後に川北洋行道院長の棒術を披露しました。お寺の境内での演武は初めてで、石の通路、砂利、植え込み、やぐらでの演武にみんな緊張していたと思いますが、けがなく新たな経験でした。（川北洋行）



原点回帰

「原点回帰」少林寺拳法において原点に帰るといことはどのようなことなのでしょう。

開祖は存命のころから、事あるごとに我々に向かって、原点に帰れ、と呼びかけておられました。

人、人、人、すべてはその人の質にあるという金剛禅運動の出発点は開祖の確信であり、また原点に帰るといことは少林寺拳法創始の動機と目的、つまり開祖の志をしつかり自分のものとして、その意志を引き継ぎ、その後について「人づくりによる国づくりの道」を歩むことにほかなりません。

そして、「人づくり、国づくり」の手段として何が一番ふさわしいかとさまざまな試行錯誤の中で生まれたのが教えとしての「金剛禅」であり、行としての「少林寺拳法」であったのです。

近年、行としての「少林寺拳法」ばかりに注目が集まり、本来の教えである「金剛禅」が軽視される傾向にあります。

「金剛禅」はダーマに信心帰依し、人の霊止たる我として生きる道を説く宗教であることを認識することです。

つまり、必要があつて生かされていくという自覚、人の霊止たる私の認識に基づいたダーマ信仰こそが自己確立・自他共栄の生き方の中心であり、これが「金剛禅」信仰であることを自覚しなければなりません。

開祖の遷化後、原点への回帰ということが頻繁に問われていますが、果たしてどうでしょうか。

私の思い過ごしかもしれませんが、我々はいつの日から時間が止まっていて、単に時に押し流されている毎日ではないのでしょうか。

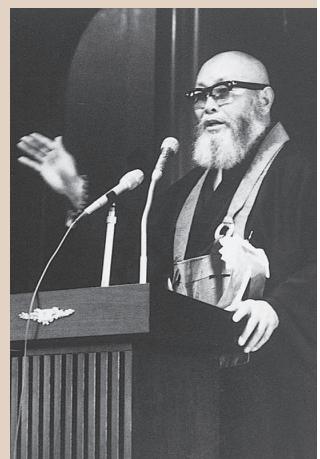
時代のニーズに合うことも必要であると思うけれど、原点を見失い、意味なく時代に迎合することだけは避けなければ、「金剛禅」に未来はありません。

いくらすばらしい教えであっても伝える者が間違つて伝えれば、また伝える者がいなくなればそれは消滅するしかないのです。教えが一人歩きするはずもなく、我々が正しく伝えていくしかないのです。

改めて「原点回帰」の重要性を再認識し、開祖の志を後世に伝えていこうではありませんか。

開祖語録 ダイジェスト

1980年2月24日
受験者に対する法話



『教範』を持っている人は後で見てください。第一編の二、「宗教とは何か」のところの注

矢内原忠雄博士が言われたことを引用してある。我々金剛禅が当初から主張し実践してきたことと同じような内容です。要するに原子力時代の今日では民主主義の国であれ共産主義の国であれ国家の権力が強くなっている」と。で、矢内原博士は疑問を投げかける。「しかし、原水爆の実験禁止という一つのことでさえも実行できない国家というものが、人類の幸福と平和を

保障するものとして無条件に信頼されるであらうか」

では何が人類の幸福と平和を実現するのか。博士は宗教の役割を強調し、本来の宗教とは「人間の霊的生命と人格の尊厳を自覚させ、己のために生きるのではなく、神と隣人のために生きる愛を生み出し……」

博士はクリスチャンだから神と言ったが、うちでいえば仏様でありダーマの分霊を持った我々ということでしょう。己のために生きるのではなく、ダーマと隣人のために生きる愛。そのみが科学技術に正しい使用目的を、国家権力に正しい政治目的を与えるのです。

己のために生きるのではなく、
ダーマと隣人のために生きる愛

僧階昇任者

少法師

■2009年9月22日付

江原 謙治(群馬前橋道院)

近藤 悦朗(西条道院)

大導師

■2009年6月14日付

長尾 浩士(広島安佐道院)

坂元 英治(若松中部道院)

中導師

■2009年5月1日付

橋本 崇(埼玉上尾道院)

■2009年6月14日付

塩野 征克(札幌あかしや道院)

稲垣 恵章(清水有度道院)

杉浦 孝任(三好道院)

野崎正人(岡崎こだるま道院)

口村 淳(滋賀守山道院)

前川 明範(チッソ守山)

■2009年9月1日付

佐藤 靖宜(前橋橋道院)

樋口 雅人(群馬北毛道院)

市川 勝彦(群馬富岡道院)

中田 美稔(埼玉平方道院)

伊藤 信雄(各務原道院)

平野 昇(名古屋中村道院)

立岩 弘(愛知田原道院)

杉島 隆(滋賀安曇川道院)

吉野 有紀(大阪福島道院)

古谷 貴紀(大阪三市道院)

野口 恒(箕面北道院)

西山 和彦(富田林東道院)

中尾 博(八女道院)

黒木 啓一(日向南道院)

西田 薫(鹿児島種子島宝来道院)

お布施

▷美作林野道院 鷹取 孝至 10,000円
▷美作勝央道院 竹内 琢磨 30,000円
▷京都鴨川道院 林 清嗣 10,000円
▷西濃北道院 加納 博之 10,000円
▷加賀梯道院 安田 嘉昌 20,000円
▷小松中日文化センター 安田 嘉昌 10,000円

▷高砂鹿島道院 砂川 健次郎 20,000円
▷善通寺中央道院 渡辺 實 10,000円
▷児島西道院 弓場 靖 10,000円
▷三重桑名道院 廣田 芳幸 20,000円
▷日進南道院 宮地 峰樹 10,000円
▷田村 英機 50,000円
▷播磨山崎道院 東 豊俊 50,000円
▷姫路白鷺道院 藤本 義政 50,000円
▷網本房子 40,000円
▷奥村良夫 550,000円
▷札幌北都道院 成田 實 50,000円

金剛禪総本山少林寺改修基金

▷櫛梨道院 西山 俊一郎 30,000円
▷香川県少林寺拳法連盟 30,000円
▷岡山県少林寺拳法連盟 20,000円
▷境港道院 木村 弘史 10,000円
▷川西中部道院 丸野 俊一 10,000円
▷加藤 義秋 5,000円

▷喜田 良延 5,000円
▷庄野 雅巳 5,000円
▷萩原 妙子 5,000円
▷村上 一 3,000円
▷京都西道院 高野 實 5,000円
▷本部道院 供物
▷本部道院OB会 供物

達磨祭御芳志(敬略・順不同)

財香川県国際交流協会、岸本会計事務所、中村公認会計士事務所、自衛隊香川地方協力本部、多度津駅、(財)多度津町文化体育振興事業団、社会福祉法人多度津さくら会、多度津ライオンズクラブ、多度津町観光協会、四国華僑華人連合会、多度津商工会議所、山崎花店、葛上精肉店、フラワーショップじゅん、東洋防蝕工業(有)、メンバーズスナックアムール、(有)福寿司、お好み焼きよこた、(株)広告通信社、小田鋼業(株)、日本総合保険企画(株)、(有)えびず、(株)セント・レディス、(株)バイアンドバイ、カフェレスト・キャッツ、(有)白光舎、カガミ写真館、中央三井信託銀行(株)大阪支店法人営業課、(株)香川銀行、香川証券(株)、高松信用金庫 多度津支店、(株)百十四銀行、善通寺ステーションホテル、民宿トキワ、民宿浦島屋、民宿ちぐさ、ホテルトヨタ、(株)ホテルサンルート瀬戸大橋、セン

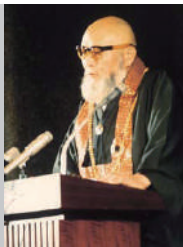
トカテリーナ、ロッジ寿、民宿細川、ペンションでぐち荘、オークラホテル(株)、(株)琴平グランドホテル、三吉旅館、四国旅客鉄道(株)、(株)三共包材、(有)岡田時計店、(株)カメイ務商店、亀山石油(株)、(株)STNet、乙種飛行豫科練習生錦江第二三期会、だるま堂、(株)高松ホットスタンプ、(株)カナック・ビジネス・ソリューション、林田石油(株)、今治造船(株)丸亀事業本部、(株)中村両栄舎印刷所、関西実業(株)、富士建設(株)、ミエデンキ、(有)溝渕造園、JTB中国四国高松支店、(株)オザキ、(株)前川商店、新日本印刷(株)、香川印刷(株)、(株)ラブ・ラボ、(有)華や商事、名鉄観光サービス(株)、(有)西山印刷所、郵便事業(株)、(株)丸松商店、山陽放送(株)、国際ゾンタ高松ゾンタクラブ、ボーイスカウト仲多度第一団、葵工業(株)、小畑長生治療院、うどんの里丸正、ウツミ整形外科医院、(有)買田果物店、ツネイシホールディングス(株)、桃陵クリニック、お食事処 まんぷく食堂、(有)長尾酒店、(株)三越 高松店、國重刺繍、佛井 淑子、多羅尾 尚、木下 敏男、平田 美智子、木谷 琢郎、仲西 秀信、細川 富子、中数賀 昭子、宮竹 八千代、村井 智子、村野 巨樹、森 修三、草薙 昭典

少林寺拳法解体新書

～映像で見る初代師家宗道臣その歴史と観念～

「科学の発達とは時間と空間を短縮し、宇宙の一つの星にすぎない地球の人類社会はやがて国境のない一つの共同体になるべき必然性を有している」 DVD 4枚組/全360分/12,600円(税込み)

少林寺拳法連盟事業部にて取扱中 TEL 0877-33-2020 FAX 0877-56-6024



11月の本山行事

1日(日) 僧階補任講習(中導師・大導師)後期

19日(木)～21日(土) 道院長資格認定研修会

22日(日) 定例昇格考試・帰山

12月の本山行事

19日(土) 本山考試員・審判員研修会

20日(日) 特別昇格考試

告示

たじま 田島 博政 元 埼玉上尾桶川 道院長
元 埼玉桶川 道院長

上記の者、2009年9月12日付にて、金剛禪総本山少林寺規則施行細則第7、12、14、15、16、17、21、25条ならびに金剛禪総本山少林寺資格規程第24条に基づき、以下の処分とする。

一、道院長を解任する。

一、少林寺拳法のすべての資格剥奪のうえ、破門する。

【処分理由】金剛禪の布教者としての善管注意義務・門信徒としての護持興隆義務に違背する重大問題に対し、再三にわたり指導を行ってきたが、解決に向けて対処せず問題を放置した。このことにより、拳士ならびに保護者へ多大な迷惑を及ぼし、当法人の信用を著しく失墜させた。これらの行為は、金剛禪の布教者として、また、門信徒として在籍するにふさわしくないと判断する。



宗務局長 田村 明

vol.7 千仏殿

清風

開祖は嵩山少林寺に行き、白衣殿の壁画に出会った。インド僧と中国僧が鍛錬しているあの有名な壁画である。少林寺拳法の世界では最も有名な壁画であり、達磨がインドから仏法と易筋行を伝えた証でもある。しかし、あそこに描かれている絵は、あくまでも修行している図にすぎない。

その白衣殿の奥に千仏殿（*）がある。千仏殿は武僧が鍛錬しところ。石畳がへこんだ跡があることで有名である。その周囲には500羅漢を描いた明代の300平方メートルの壁画がある。着目すべきはやはり壁画である。有名な白衣殿の壁画同様の黒い僧侶と色の白い僧侶が楽しく、そして悟りが開けたように談笑している。このような構図にこそ注目すべきで、我々修行者の行く先のような気がする。この壁画の前に立つと、いつまでも白衣殿で留まっていたのは進歩がないのではと考える。

*千仏殿とは、過去にも千仏、現在にも千仏、未来にも千仏があること、つまりいつでも無限なお釈迦様が存在するという意味で建てられた建物である。すなわち、あるとき、ある場所でも誰もお釈迦様になれるという大乘仏教の根本思想を端的に表したのが千仏殿である。

不立文字

事情があり休眠してしまいました。新入門の三人ほどいた元気な高校生たちは続いているだろうか。70歳で入門してきたTさん、まだいらつしゃるかなあ。復帰の少し前に話を聞いて驚きました。Tさんが初段にチャレンジ、それも道院長のご配慮で、帰山して受験するというのです。ああ、もうあれから1年半近くもたつのでした。

「合格」のメールを頂いたときは、我がごとのように嬉しさが込み上げ、思わず「おめでとうございます」と声に出していました。「継続は力」を再認識。

道場で高校生の顔は見当たりませんが、そこには黒帯のT拳士が見えるほどの異彩を放っていました。入門時より若くなられ、修行の成果がありありと感じられます。アンチエイジングを越えたりバースエイジング。三徳プラス若返り効果。無論外見のみにあらず。

生涯修行の少林寺拳法にまた新たな魅力を発見し、初生の赤子として一から出直そうとの思いが更に深まりました。

不立文字・教外別伝ではありませんが、T拳士により、行動が人の心に強く影響を与えるという教えを頂きました。

（市川若宮道院・渡邊まんじ）

一期一笑



イラスト／大原由軌子

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。
なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5
東京別院 広報誌担当宛 TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401
e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

File.7 宗務部宗務課 (2009.10月現在)



石井貴美子、倉本友子、課長 中川加代子、古河誠子

本山見える課

事務局紹介
のコーナー

宗務課は、教区関係と行事に関する業務を通じて道院長ならびに門信徒の皆様活動をサポートしております。

行事をよりよいものにするために、また少林寺拳法の教えをより多くの人に知ってもらえるよう、女性ならではの発想を生かし、皆で意見を出し合って進めています。

心の時代といわれる現代において、社会には精神的支えを必要としている人がたくさんいます。少林寺拳法がそのような人たちの心に響くような存在、寄り所であってほしいと願い、そのためには課内の信頼関係を深め、その輪を大きな信頼の輪に広げていけるように活動してまいります。

十字投



Rakan Ken, Juji nage

らんけん じゅうじなげ
羅漢拳 十字投

宗門の行としての少林寺拳法

十字投は相手が力を込めて首締^{くびじめ}を仕掛けてくる状態から、首締守法^{めうちづき}の後、目打と中段突の当身を同時に行い、その流れで十字に捕る。襟十字^{えりじゅうじ}が攻者の腕をS字形に極めて、下に落として倒す技法であるのに対して、十字投は襟十字の要領で掛手を行い、もう片方の裏手首で十字の形に捕り、攻者の体勢を崩して、体を開いて投げる技法である。(別法あり)

撮影／近森千展 文／飯野貴嗣 演武者／守者：川島一浩 正範士七段 攻者：飯野貴嗣 大拳士六段

表紙 かねもとよしとし 金本孔俊／午前4時27分、北極圏ブルックス山脈^{とら}で捉えた太陽のように輝く満月と神秘のオーロラ。【プロフィール】1954(昭和29)年、兵庫県生まれ。88年、フォトスタジオ「ゴールド」設立。94(平成6)年からアラスカでオーロラを撮影し、ライフワークとして情熱を注ぐ。写真集に『神秘アラスカ』(京都書院)『ALASKA』(青幻舎)、『聖夜 ALASKA-Holy,Night』(青幻舎)がある。神戸六甲道院、正拳士四段。http://www.studio-gold.com

編集後記▶時刻^{とき}のたつのは早いものとつくづく思い知る。「本山より」のリニューアルとして、道院長・幹部拳士^{こと}への広報誌「あ・うん」の創刊以来1年がたつ。まさに「光陰矢の如し」である。▶金剛禅運動布教活動の一助として、常に時季を得たタイムリーな広報を目指して企画・取材してきた。▶拳の三要、略・術・技の運用を念頭に置いて、今後も一段と内容充実に邁進^{まいしん}したい。諸行無常なり。(あ)

発行人：浦田武尚 発行所：金剛禅総本山少林寺 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 ☎0877-33-1010 <http://www.shorinjikempo.or.jp>
編集人：秋吉好美 企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 ☎03-5961-1400 e-mail aun@shorinjikempo.or.jp
金剛禅総本山少林寺広報誌「あ・うん」 2009年11月1日発行(奇数月1日発行)通巻第7号 印刷・製本：(株)ブル・ドック
※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITYによるライセンス事業の収益金が活用されています。

<http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.html>では、誌面に掲載仕切れなかった記事、写真のほか、動画などもご覧いただけます。



SHORINJIKEMPO